

(課題名) 低クレアチニン血症患者のバンコマイシン濃度の予測に おける ADL 評価指標の影響について

本調査研究の概要を以下に示します。【対象】に該当すると思われる方で、本調査研究に関するお問い合わせや調査の対象となることを希望されない場合は、担当医にお申し出ください。

【本調査研究の目的】

バンコマイシン（VCM）の投与量は患者さんの腎機能等を考慮して決定され、適切な血中濃度に制御する必要があります。腎機能の評価はクレアチニン値が使用されることが多いですが、日常生活動作（ADL）が低く筋力が低下した患者さんにおいては、腎機能を過大評価してしまう可能性が指摘されています。低クレアチニン血症患者ではクレアチニン値の補正が行われることがありますが、一律の補正は過小投与となる可能性があるため慎重な腎機能の評価が求められています。しかし、補正の必要性を客観的に評価する指標は知られていません。今回、当院で VCM が投与された低クレアチニン値患者を抽出し、予測濃度と実測濃度の解離に影響する因子を調査します。

【対象】

調査期間内に VCM が投与された血清クレアチニン値 0.6mg/dL 以下の患者さん

【方法】

得られたデータよりシミュレーションソフトの予測濃度と実測濃度を比較して分析します。

【情報の利用目的及び利用方法】

学会発表・論文投稿

【調査項目】

患者背景（既往歴・体格・性別・血液検査値）、VCM の投与量・初回 TDM 時の濃度や、ADL の評価指標として機能的自立度評価法（FIM）や要介護度を抽出します。

なお、必要な情報のみを統計資料として集計しますので、患者さんのお名前など個人を

特定できる情報が明らかになることはありませんので、ご安心ください。

【調査対象期間】

2021年1月1日 ～ 2022年12月31日

【利用する者の範囲】

薬剤部 松屋 翔太

【試料・情報の管理について責任を有する者】

薬剤部 松屋 翔太

【研究期間】

実施許可日から2025年8月31日（調査状況により調査期間を延長する可能性があります）

【当院の研究責任者】

松屋 翔太

関西労災病院 薬剤部

〒660-8511 兵庫県尼崎市稲葉荘3-1-69

TEL: 06-6416-1221（代表）

FAX: 06-6419-1870（代表）

E-mail: matsuya-shota@kansaih.johas.go.jp